

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	Local Active-Learning Project 事業
事業主体 (連絡先)	木曾町役場 開田支所 開田教育事務所 (0264-42-3331)
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	729,544円 (うち支援金: 366,000円)

事業内容

○インターナショナル・サマー・キャンプ (ISC) 開催

今年度は、夏の特別研究プロジェクト (Cross-cultural Art Project) として、オンラインを利用して他校生 (中・高・大学生、海外生徒も含む) とつなげ、「世界平和」をテーマに1枚の絵を描き上げる体験をしました。こうしたことで、中高生が地域や国を超えた仲間づくりにつながり、異文化交流と持続可能な関係性構築・相互理解を深める活動となりました。

○夏期・冬期・通年学習支援事業の開催

本来の目的である生徒の学力向上のため、各種学習支援をオンライン利用により行いました。

夏期 8月11～21日の内7日間

冬期 12月7日～1月19日の内16日間

通年 5月～2月 (概ね月1回) 9日間

事業効果

今年度は、新型コロナウイルスにより、交流活動が困難な中、オンライン利用による工夫した事業ができた。

①学習の場を得ることにより、地理的に不利な条件を克服し、事業後のアンケートでも学校の授業の理解度等全体的に上昇傾向が認められました。

②③④Cross-cultural Art Project 実施により、異文化交流、世代間交流が図れたとともに、他の地域を知ることにより、自分の地域の課題を発見し、今後の地域活性の期待を持てる結果となったとともに、それぞれの社会性を養うことができました。

今後の取り組み

新型コロナウイルスにより、事業開催方法の見直しを余儀なくされた今年度であったが、オンライン利用による今後の開催方法や事業を拡大していく可能性を見出した年となった。

来年度は、この経験を活かし木曾町内の各学校生徒を含めた学習支援等の事業を行ないたい。また、これまでの通常経費が軽減されることにより、事業の継続的实施が期待されます。



【学習支援の様子】

【目標・ねらい】

- ①学力の向上
- ②異文化交流により社会性を養う
- ③地域住民との世代間交流
- ④地域を学び地域活性を図る

※自己評価【 B 】

【理由】

予定されていた事業が実施困難な状況となり、見直しが余儀なくされたが、実施方法の工夫により事業実施できた。各事業の参加人数がある程度得られ、学校授業の理解度が年々上昇傾向にある。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある